

. 学校の概要 (平成15年4月現在)

茨木市立 西 中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	6	2	21	41
生徒数	253	215	230	8	706	

. 研究の概要

1. 研究主題

『ちがうこと』を前提とした学習活動の創造

各教科の学習は学校教育の基幹をなし、学力の向上とその定着は学校教育最大の課題である。この課題を解決するために過去から現在に至るまで、各地において様々な取組が行われてきた。本校は、生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るために、過去の実践を検証し、生徒の理解や習熟度の違いを前提とした学習活動の創造と指導方法の工夫・改善を重点的に行う。

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科

(全教科において指導内容を精選し、各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため。また、全教科で生徒の個人差「ちがうこと」を前提とした指導方法を模索するため。)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 全教科の指導計画・指導目標の見直し、各単元ごとの評価規準と評価方法の確立、指導方法の工夫改善。 学習を効果的に行うことができる学習集団の編成。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を明示し、生徒に目標を持たせ、個人の到達目標を持たせることによる学習の効果をあげる。 少人数による一斉指導・個人別課題学習・班学習など指導方法や形態の工夫改善を図り、学習の効果をあげる。
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業を行って、形成的評価と自己評価を導入した指導方法の工夫・改善の研究を行う。 どの単元で、どのような形態の集団で学習するのが効果的かを論議し、授業において実施し検証する。 習熟度に応じた教材の開発を行う。(～3年次) 生徒の生活実態の把握に努め、生活習慣や家庭学習等の確立について、保護者に協力を要請する。

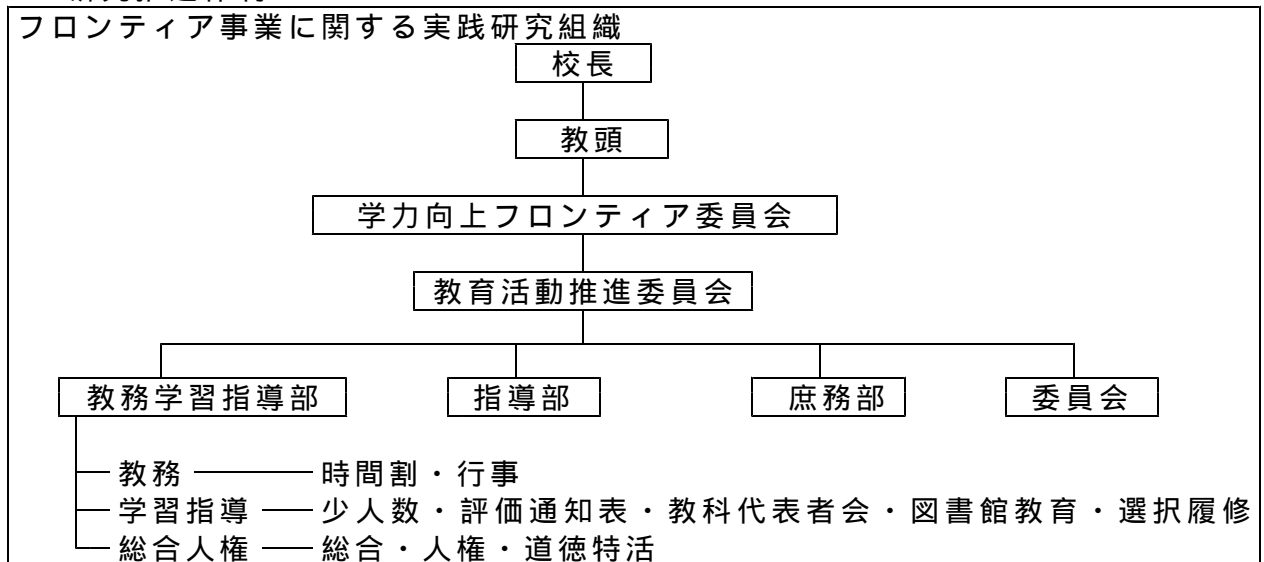
平成15年度

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容を精選し、基礎的な内容の確実な定着を図る。 生徒の個人差「ちがうこと」を前提とした指導方法の工夫改善。
仮説	<ul style="list-style-type: none"> 形成的評価と自己評価の実施、その評価を基にした個別学習といった指導方法を確立し、単元の完全習得学習をめざす。
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通じてのレディネスの調査、形成的評価、個別課題学習事後評価により、生徒一人一人の学習成果を検証し、指導方法の確立にむけての研究を行う。 見直した指導計画をもとに、学習指導を進める。 必修教科・選択教科・総合的な学習の時間の関連を重視し、主体的・自主的な学習態度の育成を図る。 小学校と連携し、既習の学力差・学習習慣に関して、実践交流や研究交流を行う。 「学習の手引き」を作成する。

平成
16
年度

テーマ	<ul style="list-style-type: none">・指導計画の点検を行い、完全習得学習を進める。・評価と指導の一体化を図りながら、個人差に応じた指導方法の工夫・改善及び教材の開発を進める。
仮説	<ul style="list-style-type: none">・指導と評価の一体化を図るため、完全習得学習（マスタラーニング）を引き続き実施し、「ちがうこと」を前提とした学習活動の創造をめざす。
研究内容 方法	<ul style="list-style-type: none">・指導計画の点検を行い、完全習得学習（マスタラーニング）を進める。・評価と指導の一体化を図りながら、個人差に応じた指導方法の工夫改善、教材の開発をさらに進める。・授業公開等により市内の学校に研究の成果を発信し、研究を検証する。・「学習の手引き」をもとに、生徒の主体的・自主的な学習態度の育成を図る。・生徒の学習習慣等生活習慣の確立を図る。

3. 研究推進体制



- ・学力向上をめざす取組は、本校の教育目標の柱である。そのため、全教育活動を通して学力向上にむけての取組を行っている。
- ・学力向上フロンティア委員会が中心となり、研究推進を担う。学力向上フロンティア委員会は、校長・教頭・教務・学習指導・総合人権・研究主任・生徒指導の負担からなる。毎週会議を持ち、研究の企画や計画を行う。
- ・教育活動推進委員会は、校長・教頭・教務・学習指導・学年主任・生徒会・障害児教育・生徒指導・研究の負担からなる。教育活動の計画と企画・調整を行い、学力向上フロンティア委員会との連携を密にして研究推進を行っている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

成果

年間指導計画の充実

教師が見通しを持って教科指導にあたるために、そして生徒も事前に学習内容と流れを知って学習に臨むことができるように、年間指導計画（シラバス）の作成に努めた。作成にあたっては、全ての教科において、指導時期、指導目標、配当時間を明確にし、効果的な指導方法と評価方法等について検証していった。成果については、生徒や保護者に教科通信で発信した。

校内の研究授業の実践

「ちがうことを前提とした学習活動の創造」というテーマに、6月、11月、

1月を「授業交流月間」として位置づけ、授業の参観交流を行った。互いの授業を参観し、意見を交流することで教師の力量を高めることができた。

特に、一斉指導を行った後、形成的評価を取り入れたり、生徒の理解や習熟に応じた教材や課題に取り組みさせるなど、授業のあり方について研究した。

効果的な学習集団の編成と指導方法の工夫

効果的な学習集団を編成するために、習熟度別編成・個人別課題学習についての研究の推進を行った。また、班を利用した教え合い学習や教室の環境づくり、教科係りの活動についても実践研究を進めた。

学力度数分布の二極間の緩和にむけての取組

学力実態から、「できる子」「できない子」の二極化が顕著になっているので、教員は二極の中間層の少し下の学力をもつ生徒が理解できる授業展開を心がけた。また、学習意欲を高め、授業規律の確立をめざす取組を各学年・各教科で組織的に進めた。

「授業開き」の集約

各教員が年度初めの授業で実施する「オリエンテーション」の内容を集約した。それをもとに交流し、目標の共有化を図った。

個別指導

2・3年生全員に、5教科の基礎的な内容の小テストを行い、その結果にもとに補充学習や個別学習を行った。特に2年生では、「数学」につまずきのある生徒に対して、学年担当教員が個別の指導を行った。また、宿題の個別化をはかり、家庭学習の定着を進めた。

小中連携推進のための共同研究

学力向上フロンティア事業の実践と成果を市内に広めるために、西中学校と西中学校に進学する4小学校の少人数指導加配教員が集まり、児童生徒の実態交流と「算数」「数学」の系統的指導について研究を行った。本年度は、特に計算領域で系統性を研究した。その研究成果をもとに、2月20日に畑田小で市内少人数指導加配教員参加による公開授業研を行う。

課題

- ・評価と指導の一体化を図りながら、個人差に応じた指導方法の工夫改善、教材の開発をさらに進める。また授業方法や評価、自己選択や自己評価等について小学校と連携を深める。
- ・授業改革と平行して、各単元のねらいを明確にした「学習の手引き」を作成して生徒に配布し、生徒の主体的な学習を促す取組を行う。

・学力把握のための学校としての取組

- ・1年数学科において「数学確認テスト」を2回実施した。2月末に3回目を実施する。
- ・少人数授業実施の教科と他の教科との学力を成績一覧表により比較した。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<平成15年 6月>

- ・広島県三原市立第四中学校来校。取組について交流。

<平成15年 8月>

奈良県教育研究センター主催「リーダー研修」(研究主任等対象)

研究協議「少人数授業における効果的な学習活動の展開と指導法の改善」

<平成15年12月>

豊能三島合同学力向上地区協議会主催「学力向上研修会」

(三島豊能地区教職員対象)

研究協議「授業改革に向けたさまざまなチャレンジ！」